

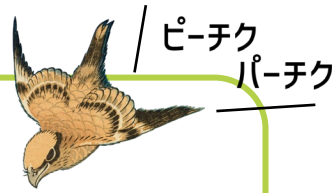
2023年2月15日  
すみだ北齋美術館企画展 **北齋バードパーク**

## 見どころ・最新情報のご案内

すみだ北齋美術館は3月14日（火）から5月21日（日）まで企画展「北齋バードパーク」を開催いたします。本展は、浮世絵師・葛飾北齋（1760-1849）や門人が鳥を描いた作品約110点を展示し、バードパークで色々な鳥たちとふれあうように、その美しさや画技の素晴らしさを身近に感じていただく展覧会です。本展の展示構成や見どころのほか、新しい関連イベントが決定しましたのでご案内いたします。



## 本展の見どころ

**（1）浮世絵にみる、江戸時代に巻き起こった鳥ブーム！**

江戸時代には、花鳥茶屋へ見物に出かける、ペットのウズラを巾着に入れて連れ出すなどの鳥ブームが巻き起こっていました。その様子は、鳥が描きこまれた浮世絵作品が多数あることからもうかがえます。本展第1章「バードウォッチング」では、鳥の種類ごとに、北齋や門人の作品に描かれた66種の鳥をご紹介します。

**（2）北齋の花鳥画の錦絵**

錦絵の花鳥画は、天保期（1830-44）に、版元・西村屋与八から北齋の大判花鳥画と中判花鳥画のシリーズが出版され、好評を博します。北齋はその他にも花鳥画をテーマとした錦絵を制作しており、そのジャンルを確立させるのに一役買ったと考えられています。本展では、北齋の大判・中判花鳥画のシリーズの中から前後期あわせて5点を展示！花鳥画の魅力である美しい色合いや質感表現をご覧ください。

**（3）作品に登場する鳥の意味を読み解く！**

北齋や門人の作品に描かれた鳥たちは、描かれた場面の季節や人物の思いなど、様々な情報を伝えます。第3章「舞台装置としての鳥」では、江戸時代の小説の挿絵などに登場する鳥たちに込められた意味を読み解くほか、北齋が生きたニワトリを演出に使い絵画パフォーマンスを行ったという逸話「竜田川に紅葉」の再現をご紹介します。

※次ページにて展示構成と主な出品作品をご紹介します。



## ■「美術館でバードウォッチング よく観るガイド」

本展会期中、会場を回りながらバードウォッチングのように作品に描かれた鳥を探す「よく見るガイド」を配布します。詳細はホームページにてお知らせいたします。

## ■ワークショップ「ミニ花鳥図屏風を作ろう！」

北齋の描いた鳥や花の絵を組み合わせて、オリジナルのミニ花鳥図屏風を作るワークショップです。申込方法など詳細はホームページにてお知らせいたします。

- ・日時 5月5日（金・祝）14:00～15:30（開場13:30）
- ・会場 MARUGEN100（講座室）
- ・対象 小学3年生以上 ※お子さまから大人の方までご参加いただけます。
- ・定員 15名（事前申込制・先着順、空きがあれば当日受付も可能） ※同伴の保護者は1人につき2名まで。
- ・料金 無料（ただし、企画展観覧券か前売券、または年間パスポートが必要です）

## ■オリジナルリーフレットを3月14日（火）より1階ミュージアムショップにて販売します。

展覧会の見どころ作品と解説をA4サイズ8ページにまとめたリーフレットです。

- ・価格 税込350円
- ・判型/ページ数 A4縦長8ページオールカラー

## 展示構成と主な出品作品

### 【第1章 バードウォッチング】

江戸時代には、鳥ブームが巻き起こっていました。鳥の飼育も流行していましたが、孔雀茶屋や花鳥茶屋なるものも存在し、現代の人々が動物園のバードパークやフクロウカフェを訪れるように、江戸の人々も鳥を見物に出かけていました。本章では、前後期あわせて 66 種の鳥の種類を示しながら作品を展示し、あまり知られていない鳥や特にご注目いただきたい鳥を、パネルでご紹介します。北斎の生きた時代の人々が、どのような鳥を目にしていたかを感じながら、北斎一門の画技の魅力をご堪能ください。



#### ホトトギス



当館初公開  
葛飾北斎「杜鵑」すみだ北斎美術館蔵（前期）



当館初公開となる北斎の肉筆画です。北斎には、半紙風の薄手の紙に、落款は「北斎」、印は「亀毛蛇足」もしくは「辰」「政」を捺した作品群があり、本図もそのうちの一幅です。本図は印影にズレがあり、急いで制作された状況が推測されることから、これらは書画会などで頒布された可能性もあります。輪郭線を描かない没骨法（もっこつほう）で夜空に浮かぶ月の光を優しく描き出す一方、墨の濃淡や線の肥瘦（ひそう）でホトトギスの羽の艶やかさや柔らかな質感を表現するほか、特徴とされる赤い口中も描き出しています。



#### イスカ



葛飾北斎「鶇」小劔」すみだ北斎美術館蔵（後期）



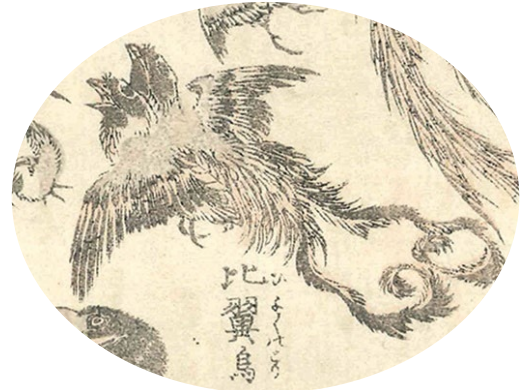
漢詩や俳諧が画中に添えられた 10 枚揃の西村屋版中判花鳥画シリーズの一幅です。本図では、目元の黒い模様のぼかし摺や、頭の輪郭線を一筆ではなく、丸みを帯びた線をつなげて描くことで、羽毛のふわっとした質感を表現しています。イスカの特徴である、先端が上下で交差するくちばしも正確に描かれています。



## 絵手本『北斎漫画』に描かれた様々な鳥・非実在の鳥



葛飾北斎『北斎漫画』三編 風鳥ほか すみだ北斎美術館蔵（通期）



日本の野山でみられる鳥から輸入されていた鳥まで様々な鳥（\*）が描かれています。中でも右頁中央にいる「比翼鳥」は、中国の想像上の鳥で、眼と翼が一つしかないため、雌雄が常に一体となって飛ぶといわれています。ニューギニア島などに生息するヒヨクドリは、飼い鳥として輸入された際、初めて見た者が伝説の比翼鳥に似ていると思い、名付けたものがそのまま定着したといえます。二本の長く伸びる尾羽が内側に巻いているところが似ていますが、ヒヨクドリには頭は二つありません。

\*本頁に描かれている鳥：（右上から）オオフウチョウ ヘラサギ チドリ ヒヨクドリ ウグイス ウコッケイ ヒクイドリ サンジャク サンコウチョウ キンケイ ヒバリ イカル ハッカクン カササギ

## 【第2章 鳥グッズ】

現在も鳥グッズ専門店があるほど鳥のデザインは人気ですが、江戸時代にも着物の文様や工芸などに鳥の意匠があしらわれていました。北斎は櫛や煙管（きせる）のデザイン集なども手がけており、魅力的な鳥グッズの数々が登場します。本章では、身の回りを彩るものとして愛された鳥の姿とともに、北斎一門の優れたデザインセンスをご鑑賞いただきます。



## 根付のデザイン

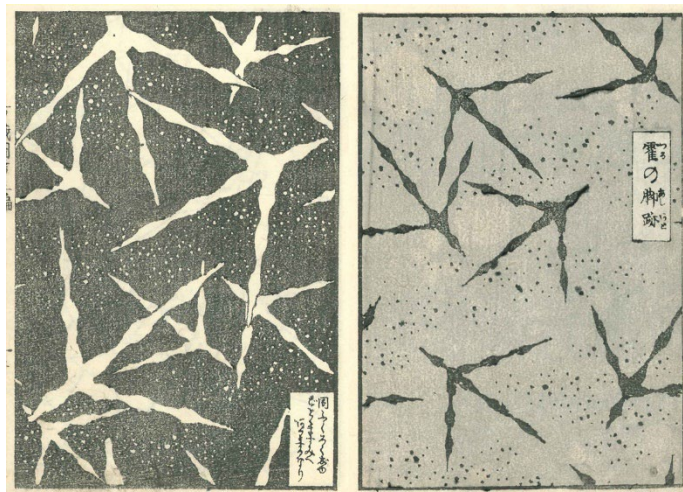


葛飾北斎「馬尽 駒菖蒲」すみだ北斎美術館蔵（前期）



空摺（からずり）で表現された懐紙の上に、シリーズ名の「馬尽」にちなみ、馬の模様の菖蒲草と呼ばれるなめし革で作った煙草入れが置かれ、根付には鳥が描かれています。江戸時代には、オウムもインコも輸入されていましたが、頭についた冠羽（かんう）がなく尾羽が長いという特徴から、インコを描いたものと考えられます。当時は、花鳥茶屋でもインコは飼育されていました。あざやかなインコの根付は、装いのアクセントになったことでしょう。



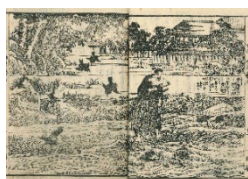


二代葛飾戴斗『万職図考』三編 霍の脚跡 すみだ北斎美術館蔵（通期）

着物の模様デザインを描いた絵手本です。「霍の脚跡」の「霍」の字は「カク」と読みますが、ここでは「つる」と読ませています。右頁では、ツルの足跡を色々な向きに描いています。左頁では足跡を白抜きにし、右頁と同じく様々な向きに描いたうえ、大小の足跡を配した模様になっています。ツルは吉祥文様であることから、着物にも好んで使われましたが、その足跡を模様にする発想がユニークです。

### 【第3章 舞台装置としての鳥】

日本人は、鳥の愛らしく美しい姿を愛でるだけでなく、いにしえより季節や感情を鳥に託して表現してきました。北斎の描いた鳥たちは、その造形で鑑賞者を魅了するにとどまらず、描かれた場面の季節や人物の思いなど、様々な情報を伝えます。本章では、鳥が舞台装置としての役割を果たしている点に着目し、鳥に託した絵師の意図をよみとくとともに、北斎が生きている鳥を制作の演出に使用したという逸話「竜田川に紅葉」の再現をご紹介します。



葛飾北斎『標注そののゆき』三  
実稚しのびて師門が家におもむかんとする時三條河原まで来て暗に奸計を生く  
すみだ北斎美術館蔵（通期）

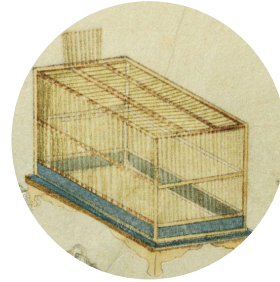
本図は江戸時代の長編小説の一種である読本（よみほん）の挿絵です。金策に困った登場人物が奸計（悪たくみ）を考え付いた、という場面が描かれています。周囲に描かれたカラスは、半数が口をあけており、騒がしい鳴き声が聞こえてくるようです。描かれた人物は口元を隠し、いかにもなにか企んでいそうな表情ですが、周囲に鳴き騒ぐカラスを描くことで、今後の凶兆が暗示されています。



## 『舌切り雀』のお話を暗示



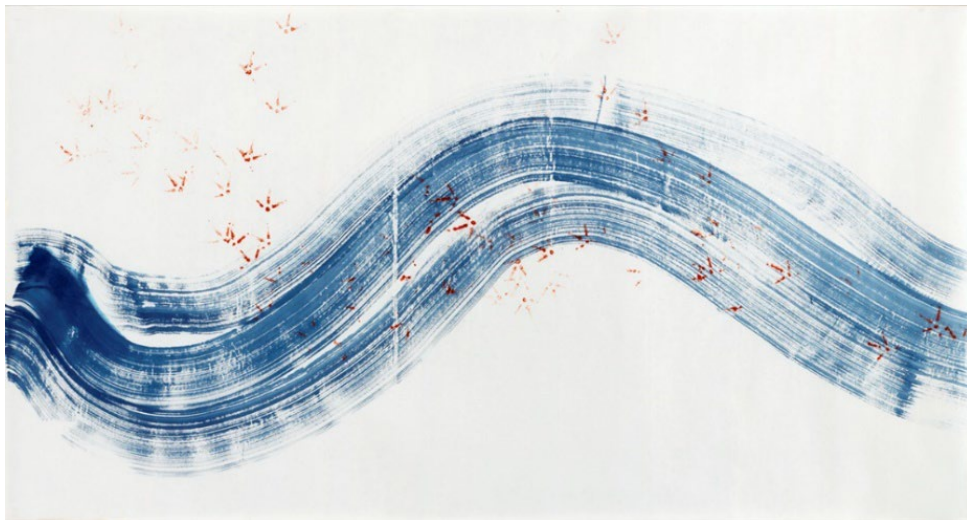
葛飾北斎「元禄歌仙貝合 すずめ貝」すみだ北斎美術館蔵（後期）



貝の名をテーマとした春興摺物のシリーズの一図です。本図には、「すずめ貝」のタイトルが付けられており、宝の入ったつづら、鳥籠、スズメを描くことで、おとぎ話の『舌切り雀』を暗示しています。宝には金摺や銀摺が見られ、つづらには膠（にかわ）をまぜて光沢を出した墨を用いて模様を表現した豪華な作品です。



## 北斎、ニワトリを歩かせて絵画パフォーマンス！



向井大祐、勝川ピー「亀田川に紅葉の図」すみだ北斎美術館蔵（通期）

明治26年（1893）に出版された北斎の伝記『葛飾北斎伝』上巻に、北斎が文化11年（1814）に将軍の御前で行ったパフォーマンスが伝えられています。11代将軍徳川家斉（1787-1837）は、南画家・谷文晁（1763-1840）と北斎を浅草伝法院に召し、絵を描かせました。北斎は長く継いだ唐紙を横にし、刷毛で長く藍を引き、携えたニワトリを籠から出すと足に朱肉をつけ、これを紙上に放ち足跡を残させた後、「是はこれ立田川の景色なり」と述べ礼をして退きました。北斎は、鳥の足跡を亀田川を流れる紅葉の葉に見立てたのです。文晁は傍らで手に汗をにぎっていましたが、人々は北斎の奇抜な試みに驚いたといっています。このエピソードからは、北斎はそのたぐいまれな画技のみならず、型破りな発想力の持ち主としても知られていたことがわかります。

本展では、2017年にすみだ北斎美術館でこのパフォーマンスの再現を試みた際に制作した「亀田川に紅葉の図」や、その映像を展示いたします。



## 北斎が確立！錦絵の花鳥画 ～「第1章 バードウォッチング」コラムより～

▽西村屋版大判花鳥画シリーズより



葛飾北斎「芙蓉に雀」すみだ北斎美術館蔵（前期）

▽西村屋版中判花鳥画シリーズより



「文鳥 辛夷花」（作品を替えて通期展示）、「鶻 翠雀 虎耳草 蛇莓」（前期）  
いずれも葛飾北斎画、すみだ北斎美術館蔵

花鳥画とは、作品のジャンルを表す東洋で用いられてきた言葉で、花や鳥のほか、動植物全般の絵を指します。浮世絵では、当初美人画や役者絵の需要が高く、花鳥画はメジャーではありませんでしたが、明和2年（1765）に多色摺木版画の錦絵が誕生すると、私的な配り物である摺物や狂歌絵本をはじめ、浮世絵に描かれるようになりました。錦絵では、天保（1830-44）初期に北斎の大判花鳥画シリーズ（10枚揃）が出版されました。これは、北斎の錦絵の花鳥画シリーズとしては初めてのもので、「芙蓉に雀」などで鳥を主題としています。続いて天保5年頃にも中判花鳥画シリーズ（10枚揃）を出版するなど、北斎の花鳥画の錦絵が好評を博していたことがうかがえることから、北斎が錦絵において花鳥画のジャンルを確立させるのに一役買ったと考えられています。

本展第1章では、天保期に西村屋から出版された北斎の大判・中判花鳥画シリーズから、前後期あわせて5点を展示いたします。

## とまり木で休むフクロウと頭巾をかぶったフクロウの謎 ～「第3章 舞台装置としての鳥」コラムより～

浮世絵には、とまり木で休むフクロウや頭巾をかぶったフクロウが登場しますが、これらの描写には、①病を払う象徴としてのフクロウ、②ズク引きという猫法のフクロウの2つの意味があります。とくに、フクロウの1種のミミズクには邪気を払うという伝承があり、薬屋のマスコットや、疱瘡除けのおまもりなど、病を払う象徴と考えられていました。

病を払う象徴としてのフクロウやズク引きのフクロウは、別々のイメージで描かれることもあれば、2つの意味を込めて描かれることもありました。北斎の描くフクロウも、こうしたイメージの流れの中で制作されました。



葛飾北斎『冠翁紳筆画譜』 山鴉 すみだ北斎美術館蔵（通期）

本図には、とまり木にとまり、頭巾をかぶったフクロウが居眠りをしている様子が描かれています。フクロウの姿は、マスコットのようにかわいらしく、顔盤と呼ばれる、目の両脇にある集音するためのパラボラ型の羽毛構造が、薄墨の地色に白の放射線で克明に表現されています。

# 企画展「北斎バードパーク」 展覧会広報用画像請求紙

画像のお申込みにあたり以下の注意事項を必ずご一読いただき、全て遵守をお願いいたします。

＜ 画像貸出に関して注意事項 ＞

- ・画像を使用の際は、クレジット全文（作家名・作品名・所蔵先・展示期間）の表記が必須となります。
- ・画像は記事などで本展をご紹介いただける場合に限りご利用いただけます。  
本展の広報に関わらない出版物や映像への使用・転載、商業利用はできません。
- ・画像の複製・貸与・頒布・配布・販売などはお断りいたします。
- ・画像は全図でご掲載ください（部分図のみの使用は不可となります）。
- ・ご使用後は、画像データの破棄をお願いいたします。
- ・展示作品は都合により変更することがあります。

ご希望の画像名にチェックをお願いいたします。

「北斎バードパーク」展 チラシ

葛飾北斎「<sup>ほととぎす</sup>杜鵑」すみだ北斎美術館蔵（前期）

葛飾北斎「<sup>いすか</sup>鶺鴒 <sup>おにあげみ</sup>小薊」すみだ北斎美術館蔵（後期）

葛飾北斎『北斎漫画』三編 風鳥 ほか すみだ北斎美術館蔵（通期）

葛飾北斎「<sup>うまづかし</sup>馬 尽 <sup>こましようぶ</sup>駒 菖蒲」すみだ北斎美術館（前期）

二代葛飾戴斗『万職図考』三編 <sup>つる</sup>鶴の脚跡 すみだ北斎美術館蔵（通期）

葛飾北斎『標注そののゆき』三 すみだ北斎美術館蔵（通期）

葛飾北斎「元禄歌仙 <sup>かいあわせ</sup>貝 合 <sup>ず</sup>す づめ貝」すみだ北斎美術館蔵（後期）

向井大祐、勝川ピー「竜田川に紅葉の図」すみだ北斎美術館蔵（通期）

葛飾北斎「芙蓉に <sup>すずめ</sup>雀」すみだ北斎美術館蔵（前期）

葛飾北斎「文鳥 <sup>こぶしのほな</sup>辛夷花」すみだ北斎美術館蔵（作品を替えて通期展示）

葛飾北斎「<sup>もず</sup>鶺鴒 <sup>るり</sup>翠雀 <sup>ゆきのした</sup>虎耳草 蛇莓」すみだ北斎美術館蔵（前期）

葛飾北斎『<sup>まんじおうそうひつ</sup>卍翁艸筆 画譜』 <sup>ふくろう</sup>山鶺 すみだ北斎美術館蔵（通期）

貴社名 |

貴媒体名 |

部署名 | (役職名 )

ご芳名 |

ご連絡先 TEL | FAX | E-mail |

ご掲載・放送予定 月 日

備考 | ※ご要望などございましたらご記入下さい。



報道関係の  
お問い合わせ先

すみだ北斎美術館 広報・プロモーショングループ  
野田 / 中原 / 林 / アシスタント高橋  
TEL 03-6658-8991 / FAX 03-6658-8992  
Email hm-pr@hokusai-museum.jp

